

**鹿児島県**  
**母子会だより**

発行所 鹿児島市鴨池新町1-7 電話099-258-2984 FAX099-296-8123  
鹿児島県社会福祉センター内 社会福祉法人 鹿児島県母子寡婦福祉連合会  
URL <http://http://www.kaboren.jp/> E-mail [kken-bosikai@orion.ocn.ne.jp](mailto:kken-bosikai@orion.ocn.ne.jp)  
発行人 尾前民子

**県母連の事業計画**

9月12日(金)  
第61回鹿児島県母子寡婦福祉研修大会  
9月20日(土)~21日(日)  
第61回九州地区母子寡婦福祉研修大会 (読早市)  
9月27日(日)~28日(月)  
全国母子寡婦福祉研修大会(秋田市)  
10月19日(日)  
鹿児島県母子寡婦父子家庭大運動会 (鹿児島国際大学)  
11月8日(土)~9日(日)  
鹿児島県母と子の交歓研修会 (大隅青少年自然の家)

ごあいさつ

鹿児島県母子寡婦福祉連合会  
理事長 尾前民子



盛夏の候、皆様には熱中症にめげず、ご清祥のことと存じます。本年五月の理事会・評議員会で三期目の理事長へのご推薦をいただき、図らずも結成六〇年からの運営を預からせていただくこととなりました。連合会の中心は名前のとおり、各市町村・支部の地域の会で、会員の皆様です。

九月十二日(金)の六十一回県の研修大会また、九月二〇日(土)・二十一日(日)の九州大会、六〇周年記念誌作成等何かとご支援をいただきますがご協力をよろしく願います。

また、会の活動を活性化するためにそれぞれの地域でも行政及び福祉団体との連携をよろしく願います。

鹿児島県保健福祉部  
子ども福祉課長



樋渡 真人

鹿児島県母子寡婦福祉連合会の皆様におかれましては、日ごろから、それぞれの地域で母子家庭等の生活の安定と自立のため、また、本県の母子寡婦福祉の推進に御尽力いただいていることに對しまして心から感謝申し上げます。

さて、今年、ひとり親家庭への福祉政策にとつて大きな変化の年になるのではないかと感じております。まず、児童扶養手当につきまして、今まで老齢福祉年金以外の公的年金との

併給が出来なかつたものが、手当額と年金の差額を給付するよう「児童扶養手当法」の改正がなされ、本年十二月一日から施行されることとなりました。また、「母子及び寡婦福祉法」も、本年一〇月一日から法律名が「母子及び父子並びに寡婦福祉法」と改名され、現在まで母子世帯、寡婦世帯のみが貸付対象となっていた母子寡婦福祉資金貸付金に、父子世帯が加わり貸付が可能となります。

さらに、昨年六月に議員立法で成立した「子ども貧困対策の推進に関する法律」において、国が定めることとなっている大綱が、今夏策定されることとなつており、その中でも、ひとり親に対する様々な施策が盛り込まれるであろうと考えております。

我が国の経済は、このところ、経済財政政策によりデフレ脱却への期待や景気回復に向けた動きが見られ、いわゆるアベノミクスによる効果が現れ始めておりますが、本県の雇用情勢は依然として厳しい状況にあります。

このような中、県では、これらの国の施策にも呼応しながら、ひとり親世帯の自立支援に向けた取組を推進するとともに、ひとり親家庭を含む県民一人ひとりが生涯安心して働き、安定した生活を送ることができるよう、仕事、生活、絆の「三つの安心」を実現するための施策を進めてまいりたいと考えておりますので、皆様には、一層の御支援、御協力を賜りますようお願いいたします。

終わりに、鹿児島県母子寡婦福祉連合会のますますの御発展と皆様の御健勝、御活躍を祈念しまして、あいさつといたします。

併給が出来なかつたものが、手当額と年金の差額を給付するよう「児童扶養手当法」の改正がなされ、本年十二月一日から施行されることとなりました。また、「母子及び寡婦福祉法」も、本年一〇月一日から法律名が「母子及び父子並びに寡婦福祉法」と改名され、現在まで母子世帯、寡婦世帯のみが貸付対象となっていた母子寡婦福祉資金貸付金に、父子世帯が加わり貸付が可能となります。



理事・評議員紹介

(平成26・27年度)



理事(川薩・出水地区) 奥園 和子

人生の三分の二は母子家庭と寡婦のくらしのドラマ演じつつ会員皆様方と県母連とのつなぎ役として頑張っています。脳細胞がこわれないように短歌作りに今を楽しみ言葉遊びをしています。



理事(始良・伊佐地区) 石塚 龍

時の流れで再度理事をすることになりました。皆さん協力し合い頑張りたいたいと思います。よろしく御指導下さい。



理事(曾於・肝属地区) 繁昌 洋子

責任の重さを痛感しております。県母連と会員とのパイプ役として頑張ります。趣味 おどり、生花、ジョギング。



理事(熊毛大島地区) 真辺 羊子

種子屋久が一つとなり、県母連との橋渡しの役割が出来ればと思います。就業支援など施策を利用し、会員増に続けて行きたいです。



理事(母子部) 久米 まち子

初めての理事として不安もありますが、今の世の中を生きたためには、桜島のマグマのごとく情熱的に行動以外にないと思います。



評議員(鹿児島地区) 山下 千穂子

鹿児島市母子寡婦福祉法人事務所にて働いております。

二度目の評議員ですので、今後とも皆様の力になれるよう、努めて参ります。現在、子どもの育成と親の介護の両方にかんがっています。



評議員(南薩地区) 久保 洋子

地区の会長(三回目)評議員理事と数々仲間づくりの二十年、今回も元気で明るく活動を助けて参ります。地域で食改、運推コーラス等楽しんでいきます。



評議員(日置地区) 馬場園 ムミ

母子寡婦との絆を大切に、知恵を出し合い楽しい母子寡婦会でありたいと願っています。趣味はヨガ、グランドゴルフ、花づくり



評議員(川薩地区) 小緑 絹代

母子会員歴三十年。何事も前向きに捉えることで母子会活動も楽しみが倍増することを学びました。



評議員(出水地区) 久保 郁子

二年間の、理事としての経験を生かし、今度は、評議員として、頑張りたいたいと思っております。民踊・フォークダンスと趣味も楽しんでおります。



評議員(始良・伊佐) 丸野 充子

会員の加入促進、行事参加等は、恒々心がけております。今回は、評議員として、会員の方々と県母連のパイプ役で頑張ります。



評議員(始良・伊佐) 南郷 ヒロコ

母子寡婦会員になり十数年県評議員三期目になります。先輩方を見習って今がある会員と共にふれ合い話合い心一つで共に励み合います。趣味 日舞



評議員(曾於地区) 川崎 和子

私は美容室を経営して今も現役です。会長二年目で初めての評議員ですが、私にできる範囲でこれからも会員との和を広げ、明るく楽しく活動出来る母子会でありたいと願っています。



評議員(肝属地区) 藤崎 律子

今年も評議員の役を引き受ける事に成りました。充分な役目も出来ないまま、申し訳なく存じます。会員の皆様方の御協力を頂き乍ら、元気で明るく活動出来ます事を願うばかりです。よろしくお願い申し上げます。



評議員(肝属地区) 岩元 ミチ子

初めて会長の職を任せられ責任を感じております。高齢化で会員が減少するなか現状維持、更に新加入者を募り、



評議員(熊毛地区) 横山 美子

平成元年に母子会に入会し、今回築評議員を仰せつかる事になりました。皆様のご指導を賜りながら会員と共に頑張りたいたいと思います。



評議員(大島地区) 師玉 敏代

寡婦で奄美の旬の野菜・果実、海山の野草五十種類で酵素を作り愛飲しています。健康第一で、一層の充実した活動を心がけています。



評議員(鹿児島地区) 日高 トキエ

初めての理事と言う大役をお受けすることになりました。責任を持って、私の出来る事は何でも精一杯働きたいと思っております。よろしくお願い致します。趣味・詩吟





### 市町村・支部会長会、 母子部長合同研修会

六月一日、県社会福祉センター大会議室で、七十一人の出席を得て、標記の研修会を開催しました。今回は理事・評議員の改選直後で、第二回理事会で行事計画等を協議し、様式等も検討しての研修でしたので、出席者の方も理解がスムーズにいったのではと、思います。

### グラウンドゴルフ大会 (報告)

七月十六日、鴨池ドームで第三回のグラウンドゴルフ大会を開催しました。

梅雨明けの暑い日でしたが、屋内の冷房の中で快適に、各地区十四チームの優秀選手達が好ゲームを展開し、郡山(鹿児島地区)が午前・午後の二ラウンド合計のスコア一八八で前年に引き続き連続優勝を果たしました。次に松元(鹿児島地区)がスコア一九一で第二位、かのやB(肝属地区)がスコア一九七で第三位となり、表彰を受けました。個人の部は、第一位内村邦子さん(かのやB)でスコア三〇、第二位秋元妙子さん(松元)でスコア三三、第三位松元タツ子さん(伊集院B)スコア三四が受賞されました。また、期待のB・B賞は徳重洋子さん(鹿児島市伊敷台)が、理事長から素敵な賞品と一緒に受賞されました。



今年、県母連が創設されて六〇年の記念誌に、各支部の活動状況を掲載しようということ、会長さんたちには恐縮ですが、地域の紹介と活性化のため、ご協力をお願いいたしました。

みなさん、楽しく、元気にプレイされ、成績もほとんど僅差でしたので、来年も是非参加したいというご意見でした。



### グラウンドゴルフ大会

#### 鹿屋支部 繁 昌 洋 子

七月十六日の県母子会主催グラウンドゴルフ大会の参加者を決めるため、七月六日に鹿屋で予選会を行いました。残念ながら別の大会と重なって参加者は二十名ほどでしたが、みなさん真剣かつ楽しくプレイされました。悪戦苦闘の末一位から十位の方が選ばれましたが、二位の方が出場を辞

退され次点の私が選手及び監督責任者として参加する事になりました。皆さんの足を引っぱらないように頑張りたいと思います。そして大会の帰りには祝勝会が出来ますよう頑張ります。七月十六日よいよ県母子会グラウンドゴルフ大会当日と成りました。朝七時鹿屋を出発し八時のフェリーに乗船し鴨池ドームに九時前に着きました。

ほとんどのチームが集まっています。会場の準備の後責任者が集められ相手チームを決めるためのくじ引きで相手チームが決まりました。一回戦と二回戦では対戦相手が違いそれぞれの地区代表選手とあつてなかなか上手でした。室内は冷房が効いて、プレイするには快適に出来ました。しかし人工芝とあつてよくボールが少しの力でも床をコロコロと遠くまで転び悪戦苦闘の連続二回戦の相手チームはホールインワンを全員が入り私達のチームも

負けてたまるかのいきごみで頑張りました。どのチームもボールがとび過ぎてその都度歓声が上がりがホールインワンがあちこちで出て盛り上がっていました。閉会式が始まりました。成績発表です。私達のチームの内村邦子さんが個人一位でした。団体では三位と十位に入賞しました。ホールインワンも全選手半分以上の方々が入っていて賞を頂きました。皆さんの足を引っ張ることなく楽しい一日と成りました。お疲れ様でした。

### 平成二十六年 第一回九州地区 母子部長会 (報告)

六月七日、福岡県総合福祉センターで、各県母子部長等十七人の出席を得て、標記の研修会が開催されました。全国母子寡婦福祉団体協議会(全母子協)会長吉村マサ子氏から、全母子協の事務局長及び事務局員

が代わったこと、手帳等運営資金の獲得に努めて欲しいこと等の挨拶に引き続き、九州地区母子寡婦団体会長藤田君子氏からの、「国への要望のためにも、九州各県母子部の強化に取り組みましょう。」等との挨拶、続いて各県母子部長の自己紹介を行い、議事に入りました。

まず、新会員の獲得については、会の楽しさ、良さを知ってもらうこと、行政の協力が重要なこと等が各県の取組から伺えたが、相互扶助の意識が弱く、具体的な活動に結びつかない現状があり、会長さんだけでなく、母子部員がそれぞれの立場から支えられるよう、あきらめずに、続けることが大切だとの意見がありました。また、県の研修大会に、一般の母子でも参加できるようにするとか、イベントやネット等情報の活用等が今後の取組にも必要だとの意見も出ました。次にブロック母子活動の

テーマ(九州)については「知名度拡大(知ってもらおう)〇〇母子連合会」が決定されました。

次の母子部長会議は九月二十日十七時(九州大会長崎)の終了後)から長崎の諫早会館で、その後における取組状況を共有することと決まりました。

**母子会に参加して**

さつま町支部 七 擲 夏 美

私達親子が母子会の行事に参加したのは、二年前の「親と子の交歓会」でした。町の広報を見て息子と一緒に参加しました。一緒に行った母子会の方たちが私達親子に優しく声をかけてくれたので一日楽しく過ごせました。その後、一泊研修に参加して、県の母子の方たちと意見の交歓や、親子で工作をしたり、他の母子の方の意見を聞く事ができる研修会なのでとても勉強になりました。息子も友達とすぐに仲良くなって

毎回来しんで参加させてもらっています。また、県の運動会では、小さい子から年輩の方までの種目があり、出る事に意義のある運動会になっている事にすごいなと思いました。今は寡婦の方の方が多く、百歳に近い方も徒競走に出て賞品をもらって帰る事が楽しみみたいで、走れなくても歩いてゴールを目指している事に感動しました。私達親子もそれぞれの種目に参加して行く時よりも、両手いっぱい賞品を持って帰って来ました。息子も楽しかったと喜んでいたので参加して良かったなと思いました。

また、昨年十一月からパソコン講習に行かせて頂きました。仕事をしながら毎週日曜日でしたが、同じ地域の方を二人お誘いして行きました。約三ヶ月講習を受けて資格を取る事が出来ました。一緒に行った方も無料で講習・受験できたのでとても喜んでいました。講習を受けながら自分でもパソコン

を購入し、今年は学校の学級委員長をしているので、案内を作ったり役立っています。また、会社でもパソコンを使う事があったので、講習を受けたおかげで使えるようになりました。講習を受けて本当に良かったと思います。



**子供と共に目標に向かって**

瀬戸内支部 保 岡 留 美

ヘルパー二級資格取得し、やり甲斐と責任を感じた頃訳あって離婚、三十五才でした。長男小四、次男小二、三男二才の母子家庭の生活が始まりました。一抹の不

安はありませんでしたが頑張らないうという強い責任感と利用者「ありがとう」の言葉が支えてくれました。クリスマスケーキを前に喜び子供の笑顔に離婚は子供達に影響は無かったとさえ思いました。そんな時、当時中学一年の長男が不登校になり、休日は相談機関、病院等訪ね歩きました。これ

という解決策も無く焦る気持ちになり、親の身勝手な子供に辛い思いをさせてしままい自責の念に駆られる日々が続きました。職場の仲間達が介護福祉士の受験準備を進めていく中、今の状態では受験どころでは無いと諦めていた時「こんな時こそ頑張らんと。親の後ろ姿を見て子は育つよ」と先輩が肩を叩いてくれました。三十七歳介護福祉士、三十八歳介護支援専門員資格を取得しました。長男は欠席早退を繰り返して乍ら図書室登校し、何とか中学校卒業通信制高校に入学しました。そして、仕事で帰宅



の遅い私に代わって夕食を準備してくれています。次男の懸命な願いを叶え、奨学金で鹿児島の高校へ進学、スポーツ大好きな三男は五年生、サッカーに夢中です。子供達が大好きな父親との生活を無くし申し訳ない思いは常にあり「母子家庭だから」と我慢させる事は絶対にさせないと決めてます。「子供がいるから大変」では無く「子供が居るから頑張れる」のです。

平成二十五年通信制社会福祉士学院に入学、幅広い知識教養を学び福祉のエキスパートとして利用者が活き活き日常生活が送れる環境を整え手助け出来る社会福祉士をめざしています。

**子育て支援員研修を終えて**

奄美支部 眞 惠利奈

私は、二歳と四歳の二人娘を育てるシングルマザーです。現在、奄美市内にありまわり寮で生活しています。関西から移住し、一

年半年が経ちました。

移住当初は、慣れない環境での生活で次女の体調不良による入院を繰り返して頼れる場所もない私はしらくり寮に長女を預かって頂いた事もあります。

シングルマザーだから一人で頑張らないといけないと肩に力を入れて過ごしていました。

そんな中、日常生活支援事業で、一時的に保育サービス等を利用出来る、ひとり親家庭向けの制度があり事を知りました。また、子育て支援員の資格を取得出来る講習が開かれる事を知り、自分自身も同じ境遇にあるひとり親家庭の皆様のお役に立てたらと思ひ、受講する事を決めました。

乳幼児や学童期の発達、成長、食生活、病気、応急処置等、全て子育て真っ只中の私に役立つ沢山の事を学ばせて頂きました。

毎日時間に追われての生活で私はなかなか娘達に向き合えていなかった事、母

親として至らない反省すべき点は沢山ありました。

私が一番心に残った嘉原先生の遊びや絵本の読み聞かせ、歌遊びの講習は、私自身も子供時代を思い出し心がほっと暖まる、そんな一時でした。娘達にも怒ってばかりではなく、寝る前には絵本を読んであげたい、いっぱい歌も教えてあげたいと思ひます。

母親としてまだまだ足りない私ですが、沢山の方々に日々支えられている事に感謝し、今度は私も子育て支援員として少しでも皆様のお役に立てたらと思ひます。子育て支援事業にお世話になるばかりですが、忙しさに負けずに一人の母親

として前を向いて頑張っていこうと思ひます。

**感謝の心**

鹿児島支部 日高 トキエ

朝一番に窓を開けて、東の空に向かって、ありがとうございます。と感謝しています。今日も元気で目が覚めた事、自由に手や足が動く事など、あたりまえと思っていることを改めて考えて見ると「あたりまえはすばらしい」ことなんだ、と思ひ自然と感謝の心が湧いて来ます。日常生活でも感謝の気持ちが生まれて来るような生き方を見つけて、豊かな心になる事が大切だと思います。

私が体験した事です。子供達が、五人位遊びに来たのでお菓子をあげました。

「ありがとう」と素直に言える子供、もらったから逃げるように立ち去って行く子供もいました。そういう子供こそ、もらった事を親に隠すようになります。この



**文芸**

大崎町支部

原田 葉子

耳遠きこと言い訳に会合に出席せぬを詫びるのみなる

青年団の昔は遠く寡婦会の一員となり経しは幾年の一人となり笑顔で生き生きと動くを見つつ言わぬ苦勞を

年金が天より降ってくる国に生まれし幸せしみじみ思ふ

集団的自衛権行使云々と言う偉い人 戦地には出ない

なるべきは人に迷惑かけぬようゆるやかに齡重ねてゆかむ

大崎町支部

淵脇 トシ子

廃校の校舎のほとりの水たまり水蓮は咲く季節わすれず

ようにならないためにも親がしっかりとした生活習慣を身につけて、ちゃんと教えていたら素直に「ありがたいございます。」と言っている子供に育っていたと思えます。良い言葉、悪い言葉の見わけ方を教える事の大切さを深く知りました。大人も子供も、ほめられて、怒る人はいません。感謝の心が生まれて来ます。いじめのない環境を大人が、私達が作り、いつでも「ありがとう」と言える素直な心を持った子供が一人でも多く生まれて来る事を期待します。

天地のあらゆるもの、草木、動物、すべての命あるものに感謝し、お互いに助け合っていくと豊かな心が育っていくのではないのでしょうか。年を取ると人生が豊かになると言われていますが、山あり谷あり坂ありの人生を歩いて来た苦労の「あかし」かも知れませんが。これからも感謝の気持ちを忘れずに日々豊かな心

で毎日を過ごしていきたいと思えます。

## 思い出

喜界町支部 黒田 美奈子

私が一才になったばかりの子供を連れて、大阪から実家へ帰って来たのは昭和五十年の暮れも押し寄せました十二月のことでした。就職先も見つからない日を過ごし生計を立てる為、機織りの技術を身につけようと紬を織り始めたのですが思うように捗らず収入を得るまでは時間がかかりそうなので思い切つて老人ホームの寮母として働くことになりました。職場では定年迄の十六年間あまりの介護の難しさを知り戸惑う事も多々ありましたが、経験の積み重ねの中で対応の仕方も身につについて、いつしか入園者の皆さんに実の家族の様な親近感を持つて接する様になっていました。私自身の事で忘れる事が出来なかったのが高校生になった子供

に夜勤明けの時も帰宅早々に弁当を作り、高校まで自転車を走らせ用務員室に預けて三年間一度も弁当を買わせないで卒業させたこと、自分ながらよく頑張ったと思えます。定年後は早速母子会の活動に参加し評議員として二十年近く私なりに頑張つてきました。最近足の痛みが気になり始めて会の行事への参加も少し苦

になりだしもどかしさを感じている所です。改めて母子会の活動を振り返ってみますと、会に入会して初めて児童扶養手当が支給される有難かつた事、又会の資金作りに日用品の販売をする為、何日も日が暮れるまで車で各集落を廻つた事、又会員の親睦を図る為のグラウンドゴルフ大会、或いは親子運動会をした事、そして会員の一番の楽しみと思われる年末の親睦会等会員の交流を続け、最近是小物作りや福祉施設への慰問等もあり単調な母子家庭の生活の中で気分転換にもなり楽

しみになっていきます。私も八十二才の年令は気にせずこれからも仲間の一人士として歩ける間は会の行事に参加したいと思つていきます。

## 私のあゆみ

国分支部 四本直子

昭和二十年台湾から帰り、落ちつく場もなく母方に身を寄せ父はすぐ妹の所當時伊佐郡羽月村へ休耕田畠を耕し自給自足を手がけ、姉二人十四才の私は和歌山の紡績へと働きに出ました。稲も作付け野菜も出さつつある時父は流行つた赤痢にかかり帰らぬ人となり、帰つて来て一年目です。母、長女、弟、いつまでも母方にいる事も出さず父が建てようとして居た所に茅葺きかやぶの家を建て住んで見たが、あまりにも寒く淋しい所で、母方の側を借り移り住みました。その頃は母子会もなく生活も苦しく生活保護をもらうにも着てくれるものを破つて着てくれと云う事で

申請はしなかつた様です。父の死に目にも逢えずでしたので、暇を取り九州内に十大紡の一つに入っている佐賀紡績に移り三人で仕送りをしました。鹿児島に出張所もあり度々父兄会を行い、親は子が年頃になればお嫁にと言う事を聞かされるとの事でした。姉も順番に結婚し、私一人で頑張りました。会社は合理的に仕事を進める所で、いきなり用紙一枚を渡し、働いて気付いた点を書きなさいとの事でした。その結果、先輩をさし置き最高の役につき勇気を出して人を動かし生産を上げる事でした。又中卒で入つて来た人を動く機械で技能指導、怪我のない様気を使いました。結婚は遅れましたが、この結婚はうまく行かず四年目で母子家庭となり、幼い子は母に頼み一生懸命働きました。仕事をしながら公民館、婦人会の役をし、仕事を辞めてから母子会十一年老人会七年朝早くはボランティア



勉強会二十三年続け、仕事があると言われると受けて何の仕事もこなす事が出来ました。人生の半分働いて来たので、股関節がすれて居て八十二才の時手術して入れ替えました。

介護も頼む事なく日常生活が出来ます。現在八十三才。ここ迄元気で来て感謝です。

### 出水支部 岡田 榮子

私は四十三才で母子会員となり三十六年目を迎えています。当時、長男二十才次男高校二年でした。主人は仕事を終えて帰って来ました。頭が痛いといひ一時間後には帰らぬ人となりました。くも膜か出血だったそうです。私はみかんを作り、まだ植え付けたばかりでした。長男は仕事について一年目でしたがすぐ帰って来ました。下の子がまだ学校でしたので収入もなく地元で建築の仕事につき何とかか生活をしました。日

曜日を利用して鹿児島迄資格を取るため行ってもらいました。お陰で今は一級建築士、土木も資格をとり、建築土木共ががんばって兄弟共に岡田建設と丸和工務店を立ち上げています。私は会に入っすぐ校区会長、市の会長、県の理事と休む間もなく働いて来ました。今では少ない会員になりましたが高齢社会では仕方ない事かも知れません。私の市では売店と自販機の収入で運営費をもらっています。又民踊部と生花部もあります。とつても楽しいです。市の行事には全部参加し又ボランティア活動も行っています。今後は一人でも加入していただくように声かけを行っていくつもりです。

### 輝け 母子寡婦福祉会

#### 西之表支部 向田 マシエ

母子会、六十一才の誕生日おめでとうございます。こみ上げる万感の中で、この

文章を綴る機会をいただきました事を有がたく思います。昭和四十五年、母子相談員に任命されるまで、福祉という、言葉すら知らない日常でした。ただ共通する事は、先の大戦で父は香港のもくずとなり、残されたのは三十五才の母と六人の子供、祖父母八人の母子家庭でした。相談員として初日の訪問は大雨の日、夫は結核で死亡、三人の子供が母親の周りに座っていました。部屋におかれた洗面器とタライに雨もりが音をたてていました。語りたいただけ語らせました。雨もりのない家にしたとい、会員になる事や、貸付について語りました。兄たちの協力等もあり笑顔が帰ったとき、母子会の事を語る役についての事「これだ」と思いました。私に福祉を教えてください、動きやすいように支えてくれたのは会員でした。心からの感謝と今後の活動に、心からのエールを贈ります。

### 薩摩川内市川内支部

#### 大平 敏子

私は平成二十四年四月から前会長の後を継ぎ今年三年目を迎えました。川内支部は平成十七年まで五百名の会員でしたが今では激減し一割の会員です。会員の高齢化で今寡婦の皆さんはご自分の庭続きを歩いておられるのが現状です。若母子の加入も進まず残っている方はごくわずかです。このような中、川内支部では物品の販売を実施しました。他の団体が始めない内にまっ先に実践いたしましたところ三十万以上を完売、中園商事さんのご理解のものと大きいリベートを頂きこの分で一日研修を実施、内容も会員さんの要望にも応えビンゴゲーム、踊り、講師による健康体操となり盛り上がりしました。何といっても良かったことは物品販売をしながら会員同士がふれあいを深め楽しくお茶会をしながら順調に結果を残すことができたこと、これ

は物品販売をしたからに外ありません。

会員は激減しましたが会員同士の結束は堅く、私も不慣れながら努力していく決意をいたしております。

会員さんと融和を図りながら自助努力をし母子寡婦福祉の精神に添うべく前向きに活動して参ります。今後も県母子寡婦福祉連合会のご指導をよろしくお願ひ申し上げます。

### 主人を亡くして十八年、今思う事

#### 野田支部 久保 郁子

主人が亡くなり、十八年。私も来年は、七十才になります。平成八年二月末、二・三日前から、床にふせてた主人が、急変し、日曜日にもかわらず、病院に担ぎ込み、エコーを取ってもらいました。まもなくお医者様より、私と長女が呼ばれ「ご主人は末期の肝臓癌でもって半年か一年でしよう」と告げられました

た。それまで、主人にたよってばかりの私で、目の前がまっくらになってしまいました。私は仕事を辞めて、看病に務めました。三月には、二級ヘルパーの最後の講習会が鹿児島市内で開催される事になって居ましたが、私は、娘達に、二級ヘルパーの講習会を諦める事を伝えました。その時長女が「お母さん、さんねんだけど、お父さんの命は長くない。看病は私にまかせて、生きるために、ヘルパーの免許を受けに行ってくれ」と後押しされて講習会に、参加致しました。それから十ヶ月後の平成九年一月一日午前十二時過ぎに「明日になったら楽になるよ」と最後の言葉を残して主人は還らぬ人となってしまいました。五十五才でした。十八年過ぎた今、一級ヘルパーを取り、社会福祉協議会に再就職して、一家の柱となり、母子会との出会い、地域の皆様やいろいろな役割を頂きながら、周

今をただひたすらに

樋脇支部 奥園和子

薩摩川内市五支部の母子会は平成十八年頃は会員が五百名程と多く、富永会長を中心に心一つになり楽しい思い出となりました。益金作りに皆が心をよせ合い何んでも語れる仲間同志、ときにはつまづき全国会長前理事長黒武者先生宅まで押しかけ討論したものでした。あれから八年過ぎ、世の中私達会員仲間も変わり会員も減少をたどっています。県母連にも苦言等々、もつとこうあつてほしいと思うこと等からFAXもしました。県母連の事務局の方々理事長大変ご無礼の数々申しわけなく思い

ます。今後は我地元を心よせ合い支えあい根をはって楽しい母子会作り仲間作りにと思うこの頃で、年を重ねてくると地域や集落のサロン等々大変忙しく残された人生を人とのふれあいを大事に生きたいと脳に伝えている私です。在宅介護の母、仕事、数々の係、役職、趣味等々  
滝のごと涙流しし人生かい  
く山越えて今を生きるる  
人生の三分の二を母子寡婦となり物語の数々を生きた。今年川薩大会は薩摩川内市五支部が当番となり、バカボンのお父さんではないけれどこれでよいのだと余りの忙しさにパニックとなり、さとされながら恩返し中です。  
自分のできる範囲で今をただひたすらに  
さながらにドラマのやうな人生を役者のごとく積み重ね来つ  
年中無休の介護なれど母の命を守りて今をともしなむ

役受けて表と裏を言ふ人よ寡婦の底力見せてやりたし

短歌は心の宝、私の心のささえになり日本語の言葉遊びに夢中です。いつしか皆同じように必ずや年を重ねていきます。アット言う間に四十年。残された人生を精一ぱいボランティア活動をともがあるがままに今を生きています。

父母の台風への備え  
思い浮かべ

さつま町支部 室屋満子

今年も台風季節がやって来ました。私の子どものころは、何回も大きな台風を経験しました。台風が近づくと、母はバケツに飲み水をくみ置きしていました。停電になる前にと、夕食とお風呂を明るいうちに済ませ、早々と床を敷き台風に備えました。

枕元には、必ず懐中電灯を置いて、寝ました。

旧国鉄職員だった父は、

早めの夕食の後、少しの仮眠を取り、庭の雨量計を確認して雨戸が飛ばされないように物干しざおで挟んで縄でくくりつけて、しつかり戸締まりをしてから、母の作った弁当を持って、夜間警戒のため仕事に出掛けていました。

今思えば、父は母と私たち姉妹を台風の夜に家に残したまま出勤するのは、きつと後ろ髪を引かれる思いだったのではないでしょう。私達も父の居ない不安な夜を過ごしました。

今回の台風八号の際も、私はサッシになった雨戸を閉め、飲み水をくみ置きして、早めに夕食とシャワーを済ませ、床を敷き、懐中電灯とラジオを枕元に置き眠りにつきました。父も母も亡くなりましたが、子どもたちのころの教えは、今も生きています。





素晴らしい  
我が先輩に感謝

出水支部 土屋 ミツ子

間もなく八月十五日、終戦記念日を迎えます。私の母も戦争未亡人で、白百合会員でした。父が出征した時、十六才の姉を頭に乳飲み児まで九人、祖母と十一人の大家族、そして終戦。父の帰りをいまか今かと待つ私の母の元に戦死の公報は二年後届きました。

出水には、飛行場もあり、七高も有り予科練生達、梅の花と散つてゆかれたのです。空襲も烈しいものでした。今は遠い出来事と思いいに残ります。さて皆さん、出

水市には出水総合医療センターがあり、その中で出水市母子会売店を運営しておりますが、この運営に

**母子寡婦福祉会が本市に寄付**

出水市母子寡婦福祉会の奥平富子会長をはじめ役員9人が1月27日、市長室を訪れ、同会が市立病院で行っている売店の運営で得た収益の中から、300万円を本市(市立病院)に寄付されました。

贈呈式で奥平会長は、「日ごろから多くの方々に売店を利用していただき感謝の気持ちでいっぱいです。市民の皆様のために利用してください」と話し、渋谷市長に寄付金を手渡しました。

これを受けて渋谷市長は、「温かいお気持ちありがとうございます。有意義に活用させていただきます」と感謝の気持ちを述べました。



当たりましては、市民の皆さんの母子会に対する温かい御支援と御理解を戴いております。はじめは、一足五円の下足番に始まり昭和四十一年四月、当時の渋谷透市長と当時の白百合会長がお墨付きをもって、交渉を交わして下さっていましたので、今では、どんな蠟の斧でも私たちは屈することはありません。私たち母子会は、この素晴らしい大先輩のおかげで会員の働く場を確保致しております。また利益の一部は、市政に反映してもらう様に、役員の方々と市長室を訪問しています。大先輩のおかげで児童福祉法に守られて売

店は安泰を期しています。私たちはこの町で生きていくかぎり、今の売店を守り、乍ら後に続く後輩の為に立派に受け継いで行き度いと思えます。白百合先輩のみなさん、ありがとうございます。また、市政、行政のみなさん、御力添えりがありがとうございました。

和泊町支部 南 ヨシエ

昭和三〇年ごろ、紬織りが盛んで何とか生計を立てることはできていましたが、子ども二人を高校や大学へ進学させるためには、紬織りだけで学費を賄うことが困難な状況でした。

そんな時、町の職員から「母子寡婦福祉会」や児童扶養手当など色々な制度について教えていただいたのが「母子寡婦福祉会」との出会いでした。

私は、すぐに本会への入会を決め、県の貸付制度を活用しながら、子ども二人を無事に高校・大学と進学

させることができたことは「母子家庭でも胸を張って立派に子どもを育てることが出来る」という、私の自信にも繋がりました。日々の生活が慌ただしく過ぎていく中、四〇歳を過ぎた頃に地元農協で就職する機会をいただき、正規職員として定年まで勤務することができました。

農協に勤めながらも本会長と民生委員を十六年務め、自分ながら忙しい毎日ではありましたが、役目を全うできたのも、職場の理解や周囲の協力があったからだ、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

会長職として一番思い出深いのは、和泊町にて開催した県大会です。奄美群島の母子寡婦福祉会を盛り上げたたくて「県大会を沖永良部で開催したい」の一言に、当時県会長であった黒武者キミ子先生や本会事務局からの協力をいただき、県内より多くの参加者を迎え、無事開催できたあの日の感

動は、今も鮮明に憶えています。

今日、母子部会は著しく、母子部の活動も限られていく中で、私にできることは今まで多くの方々に支えられてきたこと、あの日の母子寡婦福祉会に出会えたこと、素晴らしい経験や新たな仲間ができたことを、若い世代の方々に伝え、母子部会員の増強や本会の活動に協力し「母子寡婦福祉会」の素晴らしさを伝えていきたいと思えます。

お詫びと訂正

県の母子会だより第88号を年初めにお送りさせていただきましたが、標記の記事に本文7ページ目の「私と母子会を顧みて」の記事を掲載しておりますが、投稿者のお名前が「樋脇支部 山川シズ」となっておりますが、正しくは「川内支部」の「山本シズ」様です。誠に申し訳ありませんでした。

今後の編集に当たりましてはさらに充分注意を払って参ります。

## 母子家庭等就業・自立支援センター事業

就業自立と生活の安定を支援するため、母子家庭、父子家庭、寡婦の方達を対象に就業相談、就業紹介、求人情報の提供、教育費相談等を実施しています。

また、毎年実施される母子家庭の母等を対象とした自立支援講習など提供しています。

平成26年度は、医療事務講習（52.5時間）、介護職員初任者研修講習（130時間）、子育て支援員講習（27時間）を開講します。

ご利用時間 月曜日～金曜日（09：00～16：00）

窓口電話 099-206-3280

## 日常生活支援事業が利用出来ます

### ●こんな時利用下さい生活支援・子育て支援

一時的に生活援助、保育サービスが必要な家庭又は生活環境等が激変し、日常生活を営むのに、特に大きな支障が生じている母子・寡婦・父子家庭。

※自立促進に必要な理由（技能習得のための通学、就職活動等）

※社会的事由（疫病、出産、看護、事故、災害、冠婚葬祭、失踪、残業、転勤、出張、学校等の公的行事への参加等）

一つの事由で10日間まで利用できます

生活支援は1時間から 子育て支援は2時間から

<利用料（1時間当たり）>

	子育て支援	生活支援
生活保護世帯	0円	0円
市町村民税非課税世帯		
児童扶養手当支給水準世帯	70円	150円
上記以外の世帯	150円	300円

### ●お世話係

（支援員）生活支援…ヘルパー3級以上の資格者

子育て支援…保育士資格または子育て支援員講習修了者

### ●生活援助・子育て支援の内容

#### 生活援助

- ・身の回りの世話（簡単な身体介助）
- ・住居の掃除
- ・医療機関等との連絡
- ・食事の世話
- ・日用品の買い物
- ・その他一時的な生活援助

#### 子育て支援

- ・乳幼児の保育
- ・技能習得のための通学や就職活動の際の保育サービス
- ・病後児保育、医療機関等との連絡
- ・その他一時的な子育て支援



いつでも、どこでも、真心あみれる「おいしさ」と「満足」をお届けします。 OHARA CO., LTD.

**おはら仕出しセンター**  
〔直営売店〕 山形屋地階店・宇宿店・南栄店  
天神店・西駅一番街店

パーティー料理  
会議用弁当  
会席祝い膳  
行楽弁当  
会席祝い仕切  
精進料理  
棟上式弁当  
精進落とし料理  
オードブル

電話予約センター **099-238-0131**

万能和食の素 5倍濃縮

特製 **めんつゆ** 1L 1,480円

商品のご注文・お問い合わせは…

株式会社 ホリウチ

〒564-0011 大阪府吹田市岸辺南3-14-9

0120-88-0791  
FAX 06-6382-2734



いつも、原稿をお願いするのが遅くなつて、ご迷惑をおかけしますが、会員の皆様のおかげでなんとか、発刊にこぎつけました。ご投稿いただいた方々には心からお礼を申し上げます。

今年も猛暑日、台風、さらにゲリラ豪雨と、厳しい夏になっていきます。高齢者の方は、のどが乾いていなくても定期的に水分を補給するなど、熱中症に十分注意してください。消防庁も、水がのめない、倦怠感等、おかしいと思われたら、ためらわずに救急車を呼んでくださいとの広報をしています。

## 編集後記